



七里小だより

夏休み号

さいたま市立七里小学校
令和5年7月21日

そうじ

さいたま市立七里小学校
教 頭 田中 辞

大谷選手がすごいのは「打って」「投げて」だけじゃない。初回の第1打席、大谷選手が四球を選んで一塁へ歩き出した。すると、数歩行ったところで視線を落とし、何かに気付くとさっと拾い上げ、そのまま左ポケットに入れた。どうやらグラウンドに落ちていたごみを“回収”した様子だ。大谷選手は平然としたまま、一塁ベースまで歩いていった。

アメリカのファンからは、「私達が必要としていたヒーローだ」「全ての子どもに見てもらいたい偉大な模範」「投げて打って、地球のことまで考えているのか?」「大好きだ。一流の振る舞い」などと絶賛の声が寄せられている。(一昨年6月17日の試合中継より)

恩師の花巻東高校の佐々木監督は当時「ごみは人が落とした運。ごみを拾うことで運を拾うんだ。そして自分自身にツキを呼ぶ。そういう発想をしなさい。」と大谷選手に諭したそうです。「一つごみを拾うたびに運がたまる。“運”を見付けることが楽しみに変わっていく」という考え方で、大谷選手は日々を過ごすようになり、今に至っているということです。

本校では、掃除は「無駄なおしゃべりをしない(もくもく)。掃除場所の境目は重ねてやる(すみずみ)。友達と離れてやる(ぴかぴか)」を指導しています。4月に比べ、これを実践している子が増えています。何かに無言で集中して取り組む姿は、見る人を「ゾワッ」と感動させる力がありますね。いくらがんばっても賞状が出るわけではない掃除。それでも「賞状の出ないところでやり遂げよう」と努力する人が、本当に素晴らしい人なのではないかと思えます。教室の勉強は、100点を取るためだけのものではありません。『人の話を聞く』『頼まれた仕事の責任を果たす』といったこれからの人生に必要なことを身に付ける場でもあります。

「今、自分がとっている行動が、働く時間にふさわしいかどうか」、自分と向き合いながら今日も働いている七里っ子の素直な心、素晴らしいですね。子どもたちがごみをまたがない人になるように一緒に育んでいきましょう。

夏休み直前に七里っ子に願うことは1つ、命を大切にしてほしいということです。交通事故・水難事故・危険な遊び、自分の心構え1つで防げるものですから十分注意するようお声掛けください。特に、交通事故は“横切る前に止まって確認!”この心掛けだけでも小学生の事故がずいぶん減るそうです。8月29日、七里っ子に笑顔で再会できることを祈っています。